

日向灘の深海生物調査で採集したニホンヤモリザメの飼育について

(株)海の中道海洋生態科学館

蛭田 密、野間重和、○矢野泰也

海の中道海洋生態科学館では、九州近海における深海生物の展示を目的として、1995年12月20日と1997年3月26日の2回にわたり、宮崎県日向灘において深海底引き網に同乗し、漁獲量の確認や標本の採取、生物の輸送などを行った。

調査地点は、延岡市から日向市にかけての沿岸約20km沖合、水深250m～350mで、調査時の水温は表層で18.7℃、水深200mで13.2～14.4℃（宮崎県水産試験場計測）であった。

調査で得られた生物は、サメ類、エイ類、イソギンチャク類、カニ類、ヒトデ類、ウニ類などを中心に、1回目に24種104個体、2回目には9種73個体を輸送し収容した。1回目の輸送には0.5m³タンクを、2回目は水量1.5m³の活魚輸送水槽使用し、ブローワーによる通気とろ過循環、冷凍機による冷却を行った。なお、陸上輸送に要した時間は5時間45分であった。

この中で、2回目の調査で採集したニホンヤモリザメ16個体を展示水槽（2.4m³）で水温11.0～13.0℃で管理し、1997年4月3日より5月2日までの30日間展示した。水槽や通路の証明は、眼球への影響を考慮して観覧可能な最低限の照度（水槽底照度16Lux）まで暗くしたが、眼に炎症が発生し死亡が相次いだ。このため、残った個体を暗黒の予備水槽（0.2m³）に移動し、1個体を9月9日までの168日間飼育することができた。